

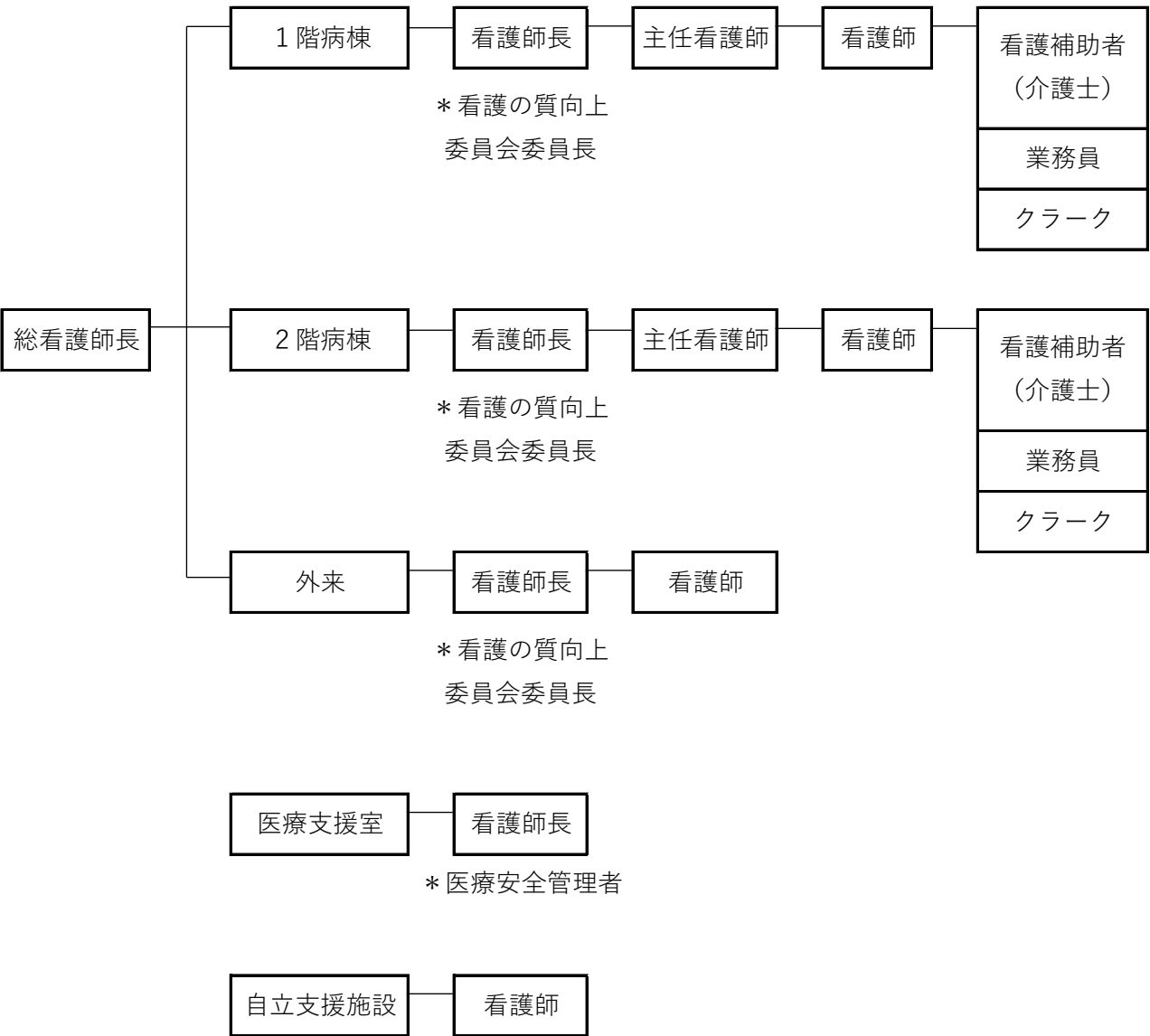
広島市立リハビリテーション病院

目次

1. 組織図	64
2. 病院理念・看護科理念、基本方針	65
3. 看護科 BSC	66
4. 看護科教育	
1) 看護師・介護士教育	68
2) 新人教育	72
3) 資格（看護協会、学会認定等）	74
4) 院内資格	74
5. 看護活動	
1) 認定看護師活動	75
2) 学会・誌上発表	76
3) 教育活動（講師・その他）	78
6. 隣地実習受入校・実習部署一覧	79

広島市立リハビリテーション病院看護科組織図

2020/4/1



1. 理念

病院理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな生活ができるよう良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

看護科理念

私たちは、利用者の皆さんの立場を尊重し、「その人らしい生活」の再構築を支援するため、質の高いリハビリテーション看護を提供します。

看護科の基本方針

- 1) 利用者の皆さんの自己決定を尊重し、誠意をもった細やかな対応をします。
- 2) 事故防止に努め、安全な看護を提供します。
- 3) チーム医療の一翼を担い、専門性の高い科学的根拠に基づいた看護を提供します。
- 4) 急性期および地域医療との連携を強め、満足していただける看護を実践します。

令和2年度 看護科のバランストスコアカード
目標:新たな学習システムを構築し、自ら学ぶ専門職になる

	経営シナリオ	各視点の戦略目標 重要成功要因:CSF	重要業績評価指標 (KPI)	KPI オーナー	H31年度 の実績
顧客の視点	利用者とのパートナーシップの構築 地域連携強化 安全安心な医療の提供	利用者との信頼関係の構築 地域との信頼関係構築 学生実習受け入れ(看護学生・中学生) 市民病院との連携により信頼関係の構築	患者満足度調査 紹介患者数 出前講座件数 学生受け入れ人数 スカイプ会議回数	看護師長 総看護師長	95.5% 500人 1件 延べ805人 0件
		安心安全な看護の提供	IA報告件数 研修会参加率 院内感染発生件数 研修会参加率 褥瘡発生率・持ち込み件数・持ち出し件数・医療関連機器圧迫創傷とスキントピア発生件数 急性増悪転院患者数 膀胱留置カテーテル離脱率 気管切開チューブ離脱率	医療安全管理者 感染対策委員 褥瘡対策委員 看護師長 総看護師長	レベル0 739件 レベル3b以上 3件 リスク研修会参加率100% 院内感染発生保菌率0.4% 持ち込み保菌率6.1% 感染研修参加率100% 褥瘡発生率0.3% 持ち出し件数0人 医療関連機器圧迫創傷25件 スキントピア11件 急性増悪5.4% 膀胱留置カテーテル離脱率73.9% 気管切開チューブ離脱率75%
財務の視点	医業収益の向上	病床利用率の向上 算定もれの防止	平均病床利用率 認知症ケア加算1算定件数 リハ総算定料算定率 摂食機能療法件数 摂食嚥下支援加算件数 排尿自立支援加算	看護師長 総看護師長	平均病床利用率 95.3% 認知症ケア加算1算定件数 R1. 12月～開始 リハ総算定料算定率 71.4% 摂食機能療法件数 R2.4～開始
		看護外来の継続	フットケア外来患者数	皮膚排泄 認定看護師	フットケア外来患者数 72件
		外来収益の向上	外来患者数の増加 専門外来(摂食機能障害評価 外来等)の拡充	看護師長 総看護師長	外来患者数の増加 18511単位 専門外来 79件
		医療保険による退院後訪問指導 介護保険による訪問看護	退院後訪問指導件数 訪問看護件数	看護師長	退院後訪問指導件数 45件 訪問看護件数 0件
内部(業務)プロセスの視点	チーム医療の推進 質の高い リハビリテーション看護の提供 在宅復帰率の向上 看護科リソースを 中心とした活動	NST介入による低栄養の改善 個別訓練実施による訓練強化 病棟訓練実施による訓練量の確保 脊損バスの導入	経口摂取回復患者率 個別訓練実施数 病棟訓練実施数 脊損バス実施患者数	NST委員 介護士 看護師長 総看護師長 回復期リハ看護師	経口摂取回復患者率 54.5% 個別訓練実施数 21150人 病棟訓練実施数 2703人 脊損バス実施患者数 3件
		在宅復帰のための支援を強化	在宅復帰率	看護の質向上担当 看護師長 総看護師長	在宅復帰率 84.3%
		入院患者のADL向上のためのグループ活動 を持続し、FIMの改善とADL自立へのサポート を実践	実績指数 認定看護師介入数	認定看護師 リハビリ看護師 看護師長 主任看護師	実績指数 50.2%
学習と成長の視点	看護師長・主任の マネジメント能力の向上 看護スタッフの実践能力の向上 職員満足度の向上	看護管理に関する勉強会	看護管理研修会の開催 管理ラダーの構築	総看護師長	看護管理研修会の開催 2回
		ナースィングスキル研修参加 協会ラダーとリハ看護ラダーを再検討し当院 の看護師ラダーを構築 介護士ラダーの構築	研修参加件数 看護師ラダーの構築 介護士ラダーの構築 研究発表	教育委員会 看護師長 総看護師長	研修参加件数 平均14回以上/年/人 研究発表4件
		職員満足度の向上	職員満足度評価調査 夜勤アンケート調査 年休取得率 離職率 時間外の削減 メンタルヘルスチェック	心理療法士 看護師長 総看護師長	職員満足度評価調査 平均3.2 夜勤アンケート調査 年休取得率 28.4% 離職率 10% 年間100時間超え職員0名 メンタルヘルスチェック実施者 48%

R2年度の 目標値	アクションプラン 実施項目	年度末評価 実施項目	期限・回数
95.5% 500人 1件 延べ810人 10件	患者満足度調査の実施 接遇研修を看護科全体で実施するとともに各部署でも1回以上研修をする。 紹介患者数をモニターする。 出前講座を行っていることを広報する。 学生の実習を受け入れる 急性期と情報交換を行い、回復期看護の質の向上を行う。	患者満足度調査を10月と1月に実施した。看護師の「挨拶・笑顔・やさしさ」の項目は良い・やや良いを合わせると98.8%であった。家族への心配りが、85.6%で、家族への声かけを積極的に、利用者とは良好な関係を築けるように取り組む。病院全体では、良い・やや良いが89.8%で、わからない・未回答が10%あった。 接遇研修を看護科全体で実施した。ナースィングスキルでの学習で、参加率は100%であった。 看護の質向上委員会を中心に、身だしなみチェックや接遇標語を使用し、職員への意識付けに取り組んだ。 新規入院患者数は484人で昨年よりも16人少なかった。市内にできた回復期病院の影響とコロナによる患者数の減少が影響したと考えられる。 出前講座・学生の実習は新型コロナウイルス感染予防のため受け入れは中止となった。 市民病院の脳外科病棟とスカイプカンファレンスを行い情報交換した。6回実施。	2回/年
レベル0 750件 レベル3b以上 3件 リスク研修会参加率100% 院内感染発生 保菌率0.3% 持ち込み保菌率6.0% 感染研修参加率100% 褥瘡発生率0.3% 持ち出し件数0人 医療関連機器圧迫創傷20件 スキントピア10件 急性増悪5.2% 膀胱留置カテーテル離脱率75% 気管切開チューブ離脱率75%	研修会に積極的に参加する。 IA情報を職員間で共有するため、IAカンファレンスを実施する。 手洗いを遵守する。PPEを適正に使用する。 アウトブレイクを防止する。 医療関連機器圧迫創傷(MDRUP)の早期発見早期治療を行う。 急性増悪転院患者数をモニターする 膀胱留置カテーテル離脱率をモニターする 気管切開チューブ離脱率をモニターする	・リスクマネジメント研修会への参加率は100%であった。 インシデントは1431件、アクシデント3b4件、暴言暴力6が41件であった。そのうちレベル0は699レベル1は527件、レベル2は253件、レベル3aは52件であった。レベル3bのPEG抜去・誤薬については、時系列で要因分析を行いリスクカンファレンスで対策を話し合った。その他のレポートについても対策についてカンファレンスを行い検討した。 ・感染研修への参加率は100%であった。ナースィングスキルでの学習と手洗い・PPEの実践を行った。院内感染発生は8件、持ち込み34件であった。 ・褥瘡発生率は1.5%、褥瘡推定発生率は0.3%、全国一般病院平均1.20%と比較しても低い数値となった。医療関連機器圧迫創傷有病率2.8%、スキントピアの発生有病率0.3%であった。発見時には早期治療を行っている。持ち出し件数0件であった。 ・急性増悪転院患者数は20名であった。(4%) ・膀胱留置カテーテル離脱率は95%であった。11月より排尿自立支援加算をとり、チームでカテーテルの早期抜去に取り組んでいる。 ・気管切開チューブ離脱率は25%であった。医学的に抜去不可能な患者もいたため低かった。	2回/年 1回/年
平均病床利用率 95.5% 認知症ケア加算1算定件 リハ総算定料算定率 75% 摂食機能療法件数 5件/月 排尿自立支援加算 R2.10～開始	空床期間を最小限にするため退院情報を早めに把握する 主治医・医療連携担当者との情報交換を頻回に行う 各チームの加算算定状況を把握する 医事課と情報交換を行い算定漏れを把握する	・病床利用率89.4%。目標には届かなかった。コロナで新規入院患者数が減少したこと、市内に120床の回復期リハビリテーション病院ができたことによる影響が考えられる。実績指数40を達成するため、平均在院日数は70.4日と昨年の72.2日と比較しても短くなっている。主治医・師長・医療連携担当者との情報交換を頻回に行った。 ・保険診療委員会、請求漏れのモニターと報酬請求に関する課題解決を行った。リハビリテーション総合実施計画書の実施率は79%であったため、来年度はさらに目標を高くする。摂食機能療法の記録は経過記録に移行し漏れを防止したため、請求に繋がった。認知症ケア加算算定件数5875件、排尿自立支援加算算定202件であった。	4回/年
フットケア外来患者数 75件	糖尿病罹患患者等新規フットケア患者を増やすため、退院患者に広報する	フットケア外来患者は延べ、68名であった。糖尿病罹患患者等新規フットケア患者を増やすため、退院患者に広報する	
外来患者数の増加 平均23人/日 専門外来 79件	退院患者に対して外来リハについての情報提供を行い、外来リハに繋げる。 訓練患者の診察、カンファレンスに受け持ち看護師が参加し個別性のある、回復訓練を促す。	4月13日から5月8日まで、12月28日から1月24日まで外来を休診にしたため、その間外来患者数は減った。1日平均患者数は20.2名で昨年よりも2.3人減少した。全体的には徐々に患者数は増えている。訓練患者の診察、カンファレンスに外来の受け持ち看護師が参加し個別性のある回復訓練を促した。	
退院後訪問指導件数 50件 訪問看護件数 1件	退院後新しい環境に適応するための調整を行った後に、在宅スタッフに引き継ぐ。機能低下を最小限にできるよう自宅でもできる訓練も取り入れる。医療保険での退院後訪問指導には要件があるが、適応のある患者には必ず訪問できるようにする。	退院後訪問指導は25回実施した。コロナ県内蔓延期には訪問を中止した。介護保険による訪問看護は実施できなかった。	1回/月
経口摂取回復患者率 55% →FOISに変更 個別訓練実施数 21150人 病棟訓練実施数 2703人 脊損バス実施患者数 5件	NST介入者を病棟で把握し、協働する 病棟での訓練量を確保し、回復を促進させる 背損バスを導入する	令和2年度より摂食嚥下支援加算が開始になった。件数は236件あった。 ICFシートの試用を行っている。研修会を行ったため、日常のカンファレンスの中でも参加の視座の目標設定ができていた。 各病棟それぞれに離床促進チーム・患者サービス向上チームがあり、リハビリ時間以外に身体能力強化訓練を実施した。参加者はそれぞれ、延べ8462人(令和元年度12577人)、延べ7748人(令和元年度8573人)であった。教育サロンは患者密になるため実施できなかった。 脊損バスはWGで最終調整中。1事例実施中。	1回/月
在宅復帰率 84.5%	介護指導を行い、自宅退院を可能な限り選択できるよう支援する。	在宅復帰率は重症者受け入れが多くなったため、10月は75%と下がっていたが、直近では90.1%と回復した。1階病棟と2階病棟の入院患者の重症者入院を平均的にするようにしている。 介護指導を行い、自宅退院を可能な限り選択できるよう支援する。徐々に介護士の役割に介護指導を入れている。	2回/年
実績指数 50%	昨年度に続きFIMのポイントを理解できるように各病棟での勉強会を開催する。看護の質向上委員会を中心に退院時のFIM得点の変更が適宜できているかどうかチームごとにチェックする。 強化訓練を挙げることで、低い値のADLにアプローチする。	3月時点での6ヶ月平均実績指数は49.9であった。昨年度に続きFIMの値の精度を上げるため、ナースィングスキルでの学習を行った。FIMワーキンググループが中心に行っている。 病棟での強化訓練を個別に挙げることで、FIM値が低い日常生活動作にアプローチする。	1回/2M
看護管理研修会の開催 3回	管理ラダーの評価基準・手順を作成し年度末までに主任・看護師長が評価を行うことができるように構築する。	管理研修は年2回実施した。 リハビリテーション看護クリニックラダーを構築したため、主任看護師、師長で評価を実施している。管理ラダーⅡを構築した。現在4人の師長が手順等のシステムの評価を行っている。	10月～3月
研修参加件数 平均15回以上/年/人 リハラダーの構築終了 研究発表4件	集合研修が減っているので、ナースィングスキルやオンデマンド研修を使用し、研修機会を設ける。研修参加が少なかった職員もナースィングスキル研修を必須研修にすることで、参加率があがる。 教育委員会を中心にラダーⅡからの構築を行う 研究発表を促す。	看護師研修参加数は院内での研修はナースィングスキルでの研修または、オンラインでの研修を実施したため、年平均25回と昨年よりも大きく参加回数が増えた。院外での研修は中止になるなど、参加できないことが多かったが、最近ではオンデマンド研修参加に代わっているため、遠方の学会など参加しやすくなっている。介護士研修への参加率は50% 夜勤が始まり参加率が落ちている。ナースィングスキルでの学習を進める。 研究発表は4件。 リハビリテーション看護キャリアラダーを構築した。ラダーⅡ取得者が5名 Ⅲ取得者が8名あった。	10月 2月
職員満足度評価調査 平均3.3 夜勤アンケート調査 年休取得率 29% 昨年よりも20時間の削減 メンタルヘルスチェック実施者 75%	職務満足度調査の低い項目について、対策を検討する。 WLBの視点から、時間外の多い職員に対して、仕事の振り分けを行う。	職員満足度評価調査は、看護師は看護協会のチャレンジを実施した。県平均3.38に対して、3.6と若干高い数値であった。数値が高かったのは、36番の「利用者の要望に真摯に向き合いに対応している。」や、37番の「利用者との接点で起きたことを日常的に話題にしている。」など、ケアの場面の項目であった。介護士の調査は昨年と同様に行った。待遇面、上司への信頼、職場の人間関係が高かった。どちらの職種も変革力が2点台と低かったが、夜勤体制の変更など、仕事内容の変化に対して柔軟に前向きに対応できている。 年休取得は、平均6日/人であった 離職は今年度10人あった。離職率12% 時間外の削減については9月単月では、看護科全体として189時間であった。昨年の309時間よりも減っていた。 平均2.5時間/人/月 勤務終了前には、就業予測時間を確認し時間を意識して業務に当たるように取り組んでいる。 メンタルヘルスチェックの実施者数は70%と前回よりも増えている。看護科の総合健康リスクは114とやや高くなっている。要因としては「仕事の質的負担」「役割葛藤」の項目が挙がっていた。	10月 2月

2020 年度 看護教育委員会 研修年間計画

集合研修 看護科職員全員対象

研修名	目的	内 容	研修方法	講師	対象者	実施日
BLS	救急蘇生の目的がわかり、一次救命の処置を行うことができる	一次救命処置の知識と技術について	講義 演習	主任看護師		4/15
ME機器扱い方	ME機器の扱いがわかる	ME機器の操作方法	講義	メーカー		4/22
皮膚・排泄ケア 必須研修	排泄ケアについて理解を深め、実践的な学びを深める	排泄ケアについて	講義 ビデオ研修	主任看護師		5/20
看護情報	患者が見える看護記録をすることができ、誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケアについて学びを深める	看護管理・情報倫理について 摂食嚥下時に関連したポジショニングについて	講義	看護情報委員会 師長		6/10 6/17
コミュニケーション障害患者への看護	失語症患者の看護に生かす	失語症患者の病態生理とコミュニケーション方法	講義	師長		7/15
認知症看護 必須研修	認知症患者の理解と看護について学びを深める	認知症患者の症状とその看護について	講義 ビデオ研修	主任看護師		9/16
高次脳機能障害患者への看護	高次脳機能障害患者の看護について学びを深める	高次脳機能障害の分類と看護の実際について	講義	主任看護師		10/21
継続看護・地域連携	回復期から維持期への連携について学びを深める	当院を退院した患者の在宅療養を知る	講義	看護師		11/18
日常機能評価 必須研修	日常機能評価の内容を理解し、精度の高い点数をつける	日常機能評価について	講義 ビデオ研修	主任看護師		12/16
事例発表	回復期から維持期へ退院支援を行った事例について理解を深め、共有する	回復期病棟で行った退院支援について	発表	1階看護師 ・ 2 階看護師		1/20
ポートフォリオ発表会	1 年間の看護活動を共有する	凝縮ポートフォリオの発表	発表	看護師 介護士		2/17
感染・リスク研修	感染・リスクの知識を深める	医療安全・感染対策について	講義	各部署感染リンク看護師		随時

卒後・入職後 2・3 年目看護職員研修 (ラダーⅡ対象必須研修)

リーダー業務	日々のリーダー業務を行うにあたり必要な知識を身に付ける	リーダーシップを発揮するための自己の課題を明確にし、課題を達成のための行動計画を立てる	講義 GW	主任看護師	卒後2年目	7/15 午後研修
フィジカルアセスメント	臨床現場で生かせるフィジカルアセスメントに必要な基礎技術を学ぶ	問診・視診・触診・打診のポイント 呼吸器/循環器のアセスメント	講義	主任看護師	卒後2年目	5/27、6/24、 7/22、7/29、 8/26、9/23

プリセプターシップ	プリセプターの理解	プリセプターの技術習得確認／プリセプターシップ年間計画の実施／プリセプターシップ支援	講義GW	看護協会 教育委員	卒後3年目	
ケーススタディ発表会	ケーススタディで看護師の展開を振り返り、共有することができる	ケーススタディ発表	発表	教育委員	卒後2年目	3/17
リーダーシップ	リーダーとしての役割を自覚し、リーダーシップ能力を発揮する	タイプ別コミュニケーション コーチング	講義GW	主任看護師	卒後3年目	5/29
社会人基礎力	社会人としての基礎力を身につける	前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の育成	講義GW		卒後2年目	2021年 予定
看護過程・看護診断	看護過程を振り返り、看護問題解決能力を向上させる 適切に看護診断をつける能力を身につける	看護診断	講義 演習	看護師	卒後2年目	7/2 1日研修

ラダーⅡ取得以上（ラダーⅢ対象必須研修）

回復期リハビリテーション看護	回復期リハビリテーション病棟における看護の役割を理解する/基本的な人体の運動のメカニズムについて学ぶ	（講義）回復期リハビリテーション看護の概念・定義/（演習）人体のメカニズム/事例検討	講義WG	主任看護師 主任看護師		適宜
看護管理	看護管理について理解し中堅ナースとして看護管理的視点を持った看護実践について学ぶ	リハビリテーション医療・看護の環境分析/診療報酬/看護管理の基礎的理解/看護サービス管理	講義GW	総看護師長		適宜

広島市立病院機構 キャリア形成の節目研修

ラダーⅡ取得看護師研修 キャリアデザインと キャリア開発	今後のライフイベントを見据えキャリアプランを立案し自己理解を深める キャリア・ライフプランの中長期展望を描くことで充実したWLBを目指す。	キャリアとは/仕事の意義と得ていること/ キャリアデザインと3つの 視点	講義 演習	未定	卒後3年目	12/10. 12/18 市民病院
新任研修 リーダー研修（上級）	組織集团の特徴を理解し、チームを昨日させるためのリーダーシップを学ぶ	リーダーの役割と機能	講義	ビジネスブレイク ン後藤康之	主任	7/10・2/22 市民病院 4階
新師長研修 ファシリテーション	ファシリテーションの概念を理解し、ファシリテーション技術を活用できるようになる	ファシリテーションの概念の 理解/会議をうまく勧める方法/ファシリテーションスキル	講義GW	野口和裕	新師長	5/22・2/19 機構本部 事務局5階

卒後1年目看護職員研修 別紙

2020年度 集合研修 介護職員全員対象

研修名	目的	内 容	研修方法	講師	実施日
回復期における介護士の役割	回復期リハビリ病院の特性及び介護の基本10項目宣言を学び介護士としての役割を理解する	当施設での介護士としての役割回復期ケア10項目宣言	講義	看護の質向上委員 介護士	4/23
介護過程の展開記録の書き方	介護過程を展開し、課題に即した介入が出来る記録をSOAPで書ける	介護過程のプロセス記録の書き方	講義	看護情報委員 介護士	5/28
生活支援技術1 食事介助・口腔ケア	食事介助の留意点を学ぶ 口腔ケアの技術を身につける	食事介助・口腔ケア 実技演習	講義 演習	介護士 (看護師)	6/25
生活支援技術2 入浴介助・更衣介助	入浴時の留意点を学び患者が安全に気持ちよく入浴出来る技術を学ぶ 更衣の目的及び更衣介助の方法	入浴の意義と留意点 更衣の目的と介助方法	講義 演習	介護士 (主任看護師)	7/23
生活支援技術3 排泄介助	トイレ介助・オムツ交換時の留意点を学ぶ 排泄日誌を読み取る事が出来る	トイレでの排泄介助 オムツ交換の実技演習 排泄日誌の読み取り方	講義 演習	介護士 (主任看護師)	9/24
生活支援技術4 移乗・ポジショニング	患者を安全・安楽に移乗出来る技術を身につける	移乗・ポジショニング 実技演習	講義 演習	介護士 (主任看護師)	10/22
生活支援技術5 環境設定	患者を転倒・転落から防ぐ環境を整える事が出来る	安全対策備品の種類と 使用目的について 設置の実技演習	講義 演習	介護士 (看護師)	11/26
倫理事例検討	困難事例において介護士として出来る介入策を導き出す事が出来る	グループ討議	講義 討議	看護教育委員会 介護士 (主任看護師)	12/24
急変時の対応	急変時の対応について理解し介護士としての動きを学ぶ	急変時における対応の 仕方	講義 演習	介護士 (主任看護師)	1/28
介護過程発表	介護過程を理解する	介護過程の展開	発表	介護士担当主任	2/25
介護過程の発表 今年度の研修の振り返り 来年度へ向けての課題	介護過程を理解する	介護過程の展開	発表 討議	介護士担当主任	3/25
感染	感染の知識・技術を身につける	感染について	講義	感染委員 院内必須研修参加	随時
リスク マネジメント	リスクの知識・技術を身につける 抑制について学ぶ	リスクマネジメントに ついて	講義	リスク委員 院内必須研修 参加	随時

卒後1年目介護職員研修

研修名	目 的	内 容	研修方法	講師	実施日
採用時	病院の組織を知り、社会人の一員として職務を責任持って遂行できる 介護専門職としての役割を身につける	広島市立リハビリテーション病院 介護職員としての心構え／接遇／ 倫理／記録／電子カルテ／リハ看護 ／介護技術／医療安全／感染管理	体験学習 実習 講義	別紙	4/1～ 4/9
2020年度新人教育研修 年間プログラム	新規採用介護職員の知識、技術の向上	教育研修年間プログラムに沿っ て随時研修実施	参加型	看護科職員	随時

*毎月第4木曜日15:30～16:30

*研修は参加型（講義・実技）とする

*講師担当の介護士は研修1ヶ月前には資料を

サポート担当者に提出し確認してもらう

2020 年度 広島市立リハビリテーション病院 看護科新人教育プログラム

日付	時間	研修テーマ	研修内容	研修目標	講師	研修対象者	備考
4/1 (水)	8:30～ 17:15	辞令交付 書類作成 オリエンテーション 組織とシステムの説明	別紙参照		西川病院長 村中 総看護師長	新人職員 全員	
4/2 (木)	8:30～ 9:30	看護科の職員としての役割(理念・ 基本方針・看護科目標)	広島市立リハビリテーション病棟の理念を下にそ の目指すもの、また看護の目指すものを明らかに にする。また、年間目標・レポート提出について 説明をする。	リハセンターの理念が理解でき、その理念の流 れに沿った看護目標・方針を理解し、自らの看 護活動に生かす事ができる	村中 総看護師長	看護師 介護士	
	9:30～ 10:30	看護科教育の考え方 看護・介護倫理	看護科の教育体制について 看護実践の中での倫理的課題について	プリセプターシップ・ラダーについて理解する 日々の看護実践の中での倫理的課題について 意識付けできる	山根師長	看護師 介護士	
	10:30～ 12:00	プリセプター紹介 病棟オリエンテーション			プリセプター	看護師 介護士	病 棟
	13:00～ 15:00	回復期リハビリテーション看護 FIM	回復期リハビリテーション看護について学ぶ FIM について	リハビリテーション看護に必要な知識・技術につ いて学びを深める FIM について学びを深める	日高 主任看護師	看護師 介護士	
	15:00～ 16:15	看護記録・介護記録 電子カルテへの入力	看護・介護記録の目的・機能・構成要素につい て 看護診断、看護計画、評価(NOC・NIC) ペーパーパリエイメントによる事例の介護過程の 展開	看護・介護記録の目的を理解し、記録することが できる。 看護計画を正確に立案し、評価していく概念が わかる 記録をカルテへ入力できる	新枝介護士 小倉 主任看護師	看護師 介護士	
	16:15～ 17:15	看護必要度	看護必要度の解釈	看護必要度が記入できる	飯田 主任看護師	看護師	
4/3 (金)	8:30～ 10:00	医療安全 セーフマスタワーインシデントシステ ム入力方法の説明	医療安全に関する基本的な考え方、インシデン ト・アクシデントの報告 インシデントシステムの入力方法および操作方 法について	医療安全に関する基礎を学び、事故のない看 護活動ができる インシデントシステムの入力ができるようになる	杉岡師長	新人職員 全員	
	10:00～ 11:00	感染対策	感染対策に関する基本的な考え方、臨床での 感染防止対策の実践について	感染対策の基礎から実際までを学び、院内感染 防止の具体策が理解できる	川端師長	新人職員 全員	
	11:00～ 12:00	感染対策実技	実技	実技	杉原看護師	新人職員 全員	
	13:00～ 15:30	移乗の技術	移乗	移乗の理論を学び、実践できる	理学療法士	新人職員 全員	
4/6 (月)	15:30～ 17:15	脳卒中リハビリテーション看護	リハビリテーション看護の現状・障害、専門的役 割について	リハビリテーション看護の実践者として、基礎・基 本となる知識を習得する	梶原 主任看護師	看護師 介護士	
	8:30～ 9:30	放射線の取り扱い	放射線被曝・MRI の安全対策について	放射線被曝・MRI の安全対策を知る	診療放射線 技師	新人職員 全員	
	9:30～ 10:30	当院で行う検査について	採血やエコー検査などの検査上の注意事項につ いて	当院で行っている検査や、採血スピッツの取り扱 い、採血方法の注意事項が理解できる	臨床 検査技師	新人職員 全員	

	10:30～ 12:00	薬剤の取り扱い	薬剤管理とその取り扱いについて	薬剤の安全な取り扱いを知る	薬剤師	新人職員 全員
	13:00～ 15:45	急変時の対応	患者急変時の対応について	患者急変時のアセスメントと救急看護を実施する	向井 主任看護師	看護師 介護士
	15:45～ 16:45	職員倫理	職員倫理について	職員倫理について理解できる	事務室	新人職員 全員
	16:45～ 17:15	情報管理	個人情報保護・情報の取り扱いについて	個人情報保護法に基づく、情報管理の取り扱いがわかる	事務室	新人職員 全員
	8:30～ 10:00	褥瘡ケア	褥瘡発生のメカニズムと予防・ケアの技術について	褥瘡の発生から治癒までの過程が理解でき、治療法・患者教育に関する知識を学び実践する	倉本主任 看護師	看護師 介護士
4/7 (火)	10:00～ 12:00	認知症ケア	認知症の病態生理 認知症患者のケア	認知症患者ケアの知識と技術を理解する	伊東主任 看護師	看護師 介護士
	13:00～ 14:45	リハ栄養 摂食嚥下障害看護	リハ栄養について 摂食嚥下のメカニズムと看護の実際について	リハ栄養が理解できる 摂食嚥下障害患者ケアの知識と技術を理解し実践する	中込看護師	看護師 介護士
	14:45～ 16:15	排泄ケア	排泄障害の病態生理 排泄障害患者のケアの概念	排泄障害患者のケアの知識と技術を理解し、実践する	小内看護師	看護師 介護士
	16:15～ 17:15	退院支援、訪問看護	退院調整・在宅支援について	退院支援、退院後訪問指導の実際を知る。	濱中 主任看護師	看護師 介護士
4/8 (水)			看護師 広島市民病院にて研修	介護士は病棟にて研修		
	8:30～ 12:00	基礎介護技術	基礎介護技術について講義、実技	介護に必要な知識、技術、態度を身につけ、介護業務手順に沿った指導の下に安全かつ確実に実施できる	中山介護士	介護士
4/9 (木)			介護士 広島市民病院にて研修	看護師は病棟にて研修		
	8:30～ 17:15	基礎看護技術 ME機器の取り扱い	基礎看護技術について講義、実技 ME機器の取り扱い説明	看護に必要な知識、技術、態度を身につけ、看護業務手順に沿った指導の下に安全かつ確実に実施できる ME機器を安全に取り扱うことが出来る	プリセプター	新人 看護師

看護師転勤者参加項目

座学・講義型から対話・体験型研修へ 現場でできる講義は現場でお願いします

- * 4月9日に採血、静脈注射等の基礎看護技術研修1日 講師：プリセプター
- * 6月17日にNANDAの看護診断、サマリー入力の研修 講師：森本看護師

4. 看護科教育

3) 資格（看護協会、学会認定等）

資格	人数	備考
認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了	14	広島県看護協会
同セカンドレベル修了	7	広島県看護協会
同サードレベル修了	1	広島県看護協会
認定看護師	4	日本看護協会
認定看護管理者	1	日本看護協会
特定行為研修共通科目修了	1	広島大学病院
回復期リハビリテーション看護師	2	回復期リハ病棟協会
医療安全管理者養成研修修了者	11	広島県看護協会
感染管理研修修了者	12	広島県看護協会
認知症ケア研修	7	広島県看護協会
介護支援専門員	9	広島県
診療情報管理士	1	四病院団体協議会
呼吸療法士	2	学会認定
医療フットケアスペシャリスト	2	学会認定
災害支援ナース	4	広島県看護協会
実習指導者養成講習会修了者	3	広島県看護協会
介護福祉士実習指導者講習会修了	1	広島介護福祉士会
介護福祉士ファーストステップ研修修了	1	広島介護福祉士会
看護教員資格者	2	広島県
修士	1	大学院
修士（在学中）	1	大学院
経肛門の洗腸療法講習修了	3	学会認定
排尿自立支援研修修了	1	大阪府看護協会

4) 院内資格

クリニカルラダー

クリニカルラダーレベル	人数	%
レベルⅠ	58 人	98.3%
レベルⅡ（レベルⅠⅡ対象者除く）	44 人	84.6%
レベルⅢ（レベルⅠⅡ対象者除く）	13 人	27.1%

*R2 年度末対象者 60 人中の割合

院内認定看護師

摂食嚥下障害看護	4 人
脳卒中リハビリテーション看護	3 人
皮膚排泄	1 人
認知症看護	1 人

5. 看護活動

1) 認定看護師活動

認定領域	氏名	認定年度	活動内容・成果
摂食・嚥下障害看護	川端直子	平成22年度	年間を通して、看護実践139件、教育32件、相談21件であった。摂食機能療法延べ165件、摂食嚥下支援加算対象者32人に対して延べ236件のケアを実践した。院内研修会の企画・実施や院外では、地域での食支援活動への参画、認定看護師教育課程や他施設等での研修講師等の活動を行った。
脳卒中リハビリテーション看護	山根ゆかり	平成24年度	年間を通して、看護介入実践は4件、教育実践は5件、相談件数は5件であった。コロナ禍の中、iPadを取り入れ、脳卒中患者の生活再構築のための家族教育を実施した。臨床倫理について多職種が参加しカンファレンスを行った。令和2年度は更に特定行為研修を受講し、修了したため、今後は看護師の特定行為実践のためのシステム構築を行っていく。
皮膚・排泄ケア	倉本美和	平成26年度	年間を通して、看護実践345件、指導77件、相談77件であった。平成28年から開設したフットケア外来は5年目となり、令和2年度の延べ件数は67件となった。院内フットケア認定制度を導入し、7名の研修修了者を輩出した。スタッフへ直接フットケアを指導することで現場でのレベルアップを図っている。4月より排尿自立支援加算の算定が始まり、チームを組み、下部尿路障害機能の回復のための包括的なケアを提供した。12月から活動し、対象人数36人、延べ202件に介入した。院外では、NPO法人コンチネンス協会の運営などに関わり、様々な活動を行っている。
認知症看護	伊東有美子	平成28年度	年間を通して、看護介入実践は482件、教育実践66件、相談件数50件であった。12月より認知症ケア加算1を取得したことで、他職種とケアについてディスカッションする機会が増え、より個別性の高いケアの提供を目指し活動している。認知機能の低下した患者が安心して治療を継続し、その人らしい生活を再構築できよう日々のケア実践に取り組んでいる。

回復期リハビリテーション看護師

回復期リハビリテーション看護師(全国リハビリテーション病棟協会認定)	白井亜紀	平成 25 年度	回復期リハビリテーション病棟協会の認定を受けた看護師 2 名で活動を始めて 7 年目となった。リハビリ看護の質向上を図るため、ケア 10 項目宣言の達成を目指した取り組みを実施している。令和 2 年度は、多職種で統一したケアを行えるよう脊髄損傷パスを作成し、使用した。また、FIM を適切に評価できるよう、多職種での事例検討や職員参加型の院内研修等の活動を行っている。回復期リハセラピストマネージャーと協働し ICF の院内研修を行った。
回復期リハビリテーション看護師(全国リハビリテーション病棟協会認定)	日高夕子	平成 25 年度	

4) 学会

学会発表

月	氏名	タイトル	主催
R3. 2	川端直子	急性期病院の摂食・嚥下障害看護認定看護師が行う脳卒中患者の誤嚥予防看護の特徴	日本赤十字広島看護大学大学院
R2. 11. 9	一瀬正伸	回復期リハビリテーション病院における脳卒中患者の在院日数に影響を与える要因	日本リハビリテーション看護学会 第 32 回学術大会
R2. 6. 20～21	伊東有美子	認知症ケア加算 2 施設基準対応研修を受けた看護師に行った認知症看護フォローアップ研修の効果	日本老年看護学会 第 25 回学術大会
R2. 8. 3～9. 2	伊東有美子	認知症高齢者における BPSD への対応生活リズムを把握することの有用性	第 61 回日本神経学会学術大会
R2. 11. 9	梶原正子	回復期病棟における失語症患者に対するコミュニケーション支援の成果～ICF モデルを活用して考察する	日本リハビリテーション看護学会 第 32 回学術大会

5) 社会貢献

社会貢献

	社会的活動	名前	役割	主催
1	日本リハビリテーション看護学会運営	村中くるみ	理事	日本リハビリテーション看護学会
2	日本リハビリテーション看護学会運営	川端直子	理事	日本リハビリテーション看護学会
3	研修の企画運営	杉岡真紀子	運営委員	連携実務者ネットワーク

4	広島地方部会運営	山根ゆかり	役員	日本脳神経看護研究学会
5	日本リハビリテーション看護学会 運営	川端直子	理事	日本リハビリテーション 看護学会
6	はつかいち暮らしと看取りの サポーター研修会	川端直子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
7	食べる困りごと相談	川端直子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
8	広島市立病院機構 教育担当者	川端直子	運営委員	広島市立病院機構
9	理事	川端直子	運営委員	POTT プロジェクト
10	介護レストラン（廿日市市）	川端直子	副実行 委員長	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
11	5 施設指導者研修会運営	向井康人	運営委員	5 施設指導者研修会
12	5 施設指導者研修会運営	小倉桂子	運営委員	5 施設指導者研修会
13	広島県看護協会北支部運営	小倉桂子	副支部長	広島県看護協会北支部
14	コンチネンス協会中四国支部運営	倉本美和	運営委員	コンチネンス協会中四国支部
15	はつかいち暮らしと看取りの サポーター主催研修会	小内恵美	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
16	介護レストラン	小内恵美	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
17	食べる困りごと相談	小内恵美	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
18	介護レストラン	永松栄子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター

講師等

	研修名	名前	年月日	主催
1	身体の計測と観察	向井康人	R2. 7～10	安佐准看護学院
2	回復期リハビリテーションの看護	白井亜紀	R2. 10. 20	安佐准看護学院
3	医療安全研修ー市リハの取り組みー	杉岡真紀子	R2. 8. 28	日比野病院
4	実習指導者研修 パネルディスカッション ～中堅看護師育成～	村中くるみ	R2. 10. 10	広島市立看護専門学校
5	広島市立リハビリテーション病院の 役割と看護	村中くるみ	R2. 2. 18	安佐准看護学院
6	リスクマネジメント論、 摂食嚥下障害援助論、 家族への指導	川端直子	R2. 7. 17	日本赤十字広島看護大学 摂食・嚥下障害看護認定看 護師教育課程
7	看護職員認知症対応力向上研修	伊東有美子	R2. 12. 22 R3. 2. 10	広島県看護協会
8	認知症対応力向上研修	伊東有美子	R2. 12. 22	広島県看護協会
9	認知症対応力向上研修	伊東有美子	R2. 2. 10	広島県看護協会
10	認知症者の理解とケアのヒント	伊東有美子	R2. 11. 9	舟入市民病院
11	認知症患者の看護	伊東有美子	R2. 5. 25 6. 1, 8, 15	広島市立看護専門学校 第一看護学科
12	認知症患者の看護	伊東有美子	R2. 10. 1, 8, 15	広島市立看護専門学校 第二看護学科

執筆

年	題名	著者	発行所	頁～頁
R2	回復期リハビリテーション病棟での 新型コロナウイルス感染症対策	川端直子	日本リハビリテ ーション 看護学会	P. 1～P. 2
R2	できることから始めた感染対策と 継続的生活支援についての課題	川端直子	日本リハビリテ ーション 看護学会	Vol. 10 P. 31～P. 35
R2	事例から学ぶ退院支援 「自宅に帰りたい」患者への支援	白井亜紀	メディカ出版 リハビリナース	R2. 7 第13巻4号P48-53
R2	事例から学ぶ退院支援 「自宅に帰りたい」患者への支援	日高夕子	メディカ出版 リハビリナース	R2. 7 第13巻4号P48-53
R2	「認知症看護認定看護師としての 活動から」	伊東有美子	日本リハビリテ ーション 看護学会	Vol. 10 P. 99
R2	「回復期リハビリテーション病棟での 認知症看護の実際」	伊東有美子	日総研 臨床老年看護	P. 24～P. 30

6. 実習受け入れ（延べ人数）

令和2年度臨地実習受入学校一覧		
学校名	分野	人数
広島市立看護専門学校	基礎看護学Ⅰ - 1 Ⅰ - 2	コロナウイルス感染症対策の ため実習の受け入れを行わな かった
	看護の統合と実践	
広島大学	基礎看護学	
安田女子大学看護学部	看護の統合と実践	
	高齢者看護学	
広島大学医学部	早期体験実習	
安佐准看護学院	成人・老年看護学	学校にて講義
日本赤十字広島看護大学	摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程	44
合計（延べ人数）		44